

### 橋口尚弘さんへの

### インタビュー

- 職業：会社員
- 家族構成：夫婦
- 移住歴：5年
- お気に入りのスポット

堀坂山

松阪農業公園ベルファーム



「松阪のイメージは、田舎のイメージでしたが、住んでみるとそうではないことに気づきました。」と橋口尚弘さんは語る。

「移住した経緯は会社の転勤によるものでした。当時、松阪には何もないと聞いていたので、不安がありました。が、いざ来てみるとお店も十分にあり、住みやすい町だと直ぐに分かりました。また、松阪牛だけではなく鶏焼肉などのリーズナブルな料理の店が多く、肉・魚・野菜のいずれも美味しいので体重が増えてしまいましたね。」と幸せそうに笑う。

他県からきたので、「大学生くらいの若い子たちを市街地などであまり見ないことに驚いたね。あと方言が特徴的で衝撃を受けましたね。」と当時を懐かしむ。

既に移住歴5年となったが、それだけに町の課題も見えてきたそうで、「暗いイメージがあるためか、松阪競輪場のことを知らない方もいて勿体ない。そもそも松阪には市民をあげてスポーツを応援する機会が少ない。プロスポーツチームがあったら良いんだけど。地元のチームがあれば愛着も湧いて、それがきっかけで盛り上がることもあると思います。」と熱い思いが伝わる。

## 『競輪場から松阪市を盛り上げたい』

そんな橋口さんは、「仕事柄競輪選手の知り合いがたくさん出来たので、今では自身もロードバイクに乗り、奥さんと一緒に堀坂山へサイクリングに行くほど自転車が好きになった」と言う。今後は、松阪競輪場でイベントなどを企画して「競輪場から松阪を盛り上げたい」と自転車普及へ尽力したいと意気込みを語る。

しかし、住んで感じる不便な点もあるようで「車社会で電車も終電が早いね。以前は限られたコンビニしかなくて不便だったよ。最近では発展してきたので住みやすくなったけどね。」と車の運転が必須の環境であることに不便を感じつつも、成長過程である町の将来性を高く評価しているようだ。

それにしても転勤、転職、起業、第二の人生など移住理由は人それぞれだ。ただ、目を輝かせながら『自転車を使つての町おこし』を話す橋口さんの姿は、環境の変化に負けないパワーや情熱こそが移住後の生活をより充実させる秘訣なのかもしれないと思わせる。



松阪競輪場